

日時：令和元年(2019年)9月20日(金) 13:30~16:20

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴希望者：1名

委員長	開会 では、第6回宝塚市行政評価委員会を始める。
委員長	傍聴希望者の確認 傍聴希望者はあるか。
事務局	本日の傍聴者は1名である。 既に入室してもらっている。
委員長	アイスブレイクの実施 審議を始める前に緊張をほぐすためにアイスブレイクを行いたいと思う。 <アイスブレイク 1分間トーク テーマ：私のお墓について>
委員長	議題に移る前に事務局から、第4回委員会で事務局を通して回答することとなっていた、「障害者（児）歯科検診事業」について説明をお願いします。
事務局	<事務局より「障害者（児）歯科検診事業」についての説明>
委員長	議題1 行政評価委員会のまとめ等の確認について では、議題1「行政評価委員会のまとめ等の確認について」の審議を始める。事務局より説明をお願いします。
事務局	<第5回行政評価委員会議事録・まとめについての説明>
委員長	それでは、各委員から修正はないか。
各委員	(意見なし)
委員長	議題2 行政評価委員会の総評等について 次に、議題2「行政評価委員会の総評等」に移る。 報告書を作成する上で、これまで評価を行ってきたまとめについて確認を行っていくに当たり事務局から説明をお願いします。
事務局	<審議項目についての説明>
委員長	「施策展開の方針」ごとのまとめについて改めて振り返り、加筆等するといった点等がないか確認する。

委員長	<p>各細施策ごとのまとめの修正はここまでとする。</p> <p>次に、今年度の行政評価委員会における総評をまとめるに当たり、各委員から意見・講評をお願いする。</p>
委員	<p>評価表の担当課総合評価で、前回と同じ内容の記載が多く見られたが、原因として評価を行う頻度が高すぎることを考えられる。評価の対象を全ての事務事業とするのではなく、横断的なプロジェクトのみにするなど工夫が必要ではないか。また、指標を掲げていない事業もある。意欲をもって評価を行ってもらうため、評価を受けた内容を次に生かした場合には予算が増える等、部署にとってもメリットになる仕組みを検討し、この委員会をより良い議論、意見交換ができる場にしたい。</p> <p>人件費については、手間はかかるが、一度正確なものを図ってほしい。プロジェクトごとに人件費を出すことで、人件費に対する感覚が芽生えてくるのではないか。直ちに行うべきであるとは言わないが、人件費に対する感覚をもう少し研ぎ澄ますことで、委託すべき事業等が見えてくると思う。</p> <p>最後に指摘の表現方法について、表現が優しく、具体的な内容の記載も行っていないため、指摘が担当者に受け止められていないと感じる。ある程度厳しい表現にした方が、受け手に訴えられると思う。具体的な意見となりすぎた結果、担当課からすれば的外れな内容とならないように注意する必要があるが、次に向けた改善点として必要なことではないか。</p>
委員	<p>職員がこの委員会に対応するための準備にどれぐらい時間をかけているかアンケートを実施し、結果を委員が事前に知ることはできないか。</p>
委員長	<p>評価を行う職員を対象とした説明会でアンケートを実施したが、研修に参加した職員が、昨年度評価表の作成に費やした時間を記入することになるため、初めて評価を行う職員は記入できなかった。</p>
委員	<p>作成に費やした時間が多ければ良いということではないが、職員からすれば、アンケートを見られているという意識で前年度と同じ内容の評価表は作成しづらくなるだろうし、私達も評価の参考にすることができると思う。</p>
委員	<p>評価表で“推進に向けて対応策をとる”と選択しているにも関わらず、具体策が分かりづらかった。もう少し一般市民が見ても分かる内容にできないのか。また、審議中に質問を行った際に、担当課が別であることを理由に回答を区切られることが多かった。より横の連携を行ってほしい。</p>
委員長	<p>事務分担はしっかり決めないと問題がある一方で、あまりにも他の課の業務に興味を持っていないことは困る。評価表があることで、誰もが宝塚の政策、その結果について分かるということだが、まずは職員にも見ていただきたい。先ほど述べたアンケートの中で、「他部署の評価表を見たことがあるか」と調査した結果、自身の課の評価表しか確認していない職員が多く、もう少し興味を持ってもらいたい。責任は他の課にある業務でも、提案やアイデアを出すといったことは行ってほしい。</p>
委員	<p>アイデアを言いたくなるような仕組みはないのか。評価された内容を達成するこ</p>

	とで、予算につながるといった仕組みであれば競争のようになって良いと思う。
委員長	行政評価は三重県から導入が始まり、以前はゲームのような形を成立させた整理を試みたが、挫折した経緯がある。評価対象の施策を絞る等、評価する人が納得して競うことができる仕組みにすればあり得る発想ではないか。
委員	評価を行った上で、素晴らしい取組に対して、目に見える形でスキルアップ等につながるような仕掛けがあっても良いのではないか。
委員長	職員の人事評価に、「適切に事業の評価を行ったか」といった項目を設ける方法もある。行政評価説明会を更に充実させ、十分にコンセンサスが取れていない、項目自体が適切であるか、どの場合に改善が必要と捉えるか等について、再度認識を共有したうえでならば、人事評価に影響させる考えもあるかもしれない。
委員長	評価は、まずはしっかり考え抜いた政策を決め、実施した結果、狙い通りにならないければ見直しを行う、あるいは社会や経済の変化の中で狙いの必要性がなくなれば適宜見直しを行っていく。委員会からは、もう少し行政評価で何を行っているのか評価者に理解していただいたうえで、評価する意欲の向上に向けて競争性を利用することや、あまりにも不備があれば、人事評価に影響させる必要があるのではないかという意見があった。
委員	評価する作業が、少なくなればもう少し議論等を深められるのではないか。
委員長	これまで4年間に渡り行ってきたことを途中で変更することはできないが、評価の研究の中で、本当に政策判断を要すべき事業に絞ってもいいのではないかという意見も当然ある。元々三重県がモデルとなっているが、以前に責任者に対し、なぜ全事業を評価するのか聞いたところ、セレクトしたら実行不能、導入不可能になるため、全員足並みをそろえて行うと述べていた。しかし、それから20年が経ち、政策判断を要する事業は評価する、それ以外は評価を行わないことがあってもいいかもしれない。勿論、費用対効果や効率性の観点では、国の政策等を踏まえ全部確認する必要があるかも知れないが、政策の狙いに対する評価については、一部に絞る方法も考えられる。ただ、適切に絞り、それをチェックする仕組みを入れておく必要がある。
委員	近年課題が混沌としており、横断的に取り組む必要がある課題が多い。この委員会が、担当者が集まって意見交換、情報交換の場になれば大変良いと思うので、複数の課が関わる横断的なプロジェクトに絞って、評価、議論できればと思う。
委員長	政策の必要性、効果を常に問う必要があるという発想を市民も含めて広げていく必要がある。国、県から予算をとってくることを念頭に置くことが、評価の発想の妨げになっているのではないか。しかし、長く外部評価を行う中で、粘り強く指摘してきたことが、徐々に取り上げられ、評価表の書き方の工夫等もあり、その点は良かったと思う。

委員	<p>今回は、基本的なことではあるが必要性に注目し、事業が現在の時代に適しているのかを1つずつ見ていくことができた。社会経済状況が変化した中で、本当に事業を行う必要があるのかという視点を持たなければ、評価というものはなかなか浸透しないのではないかと。一つ印象的だったのが、墓地についてであり、死後のことについて行政がやる時代になってきたのかと感じ、社会状況によって廃止する事業とともに、社会変化によって行政が行うべきものについて指摘できたことはよかったと思う。</p>
委員長	<p>近年、証拠に基づく政策立案という意味である、EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）が広まってきている。様々な政策について予め達成したい状態を思い描き、それを客観的に図れる数値にする。実施に当たっては、科学的に効果を図り、費用便益まで見るため、なかなか地方自治で全面展開することが難しい。地方では現実的に行えるものとして、研究者や、地域で活動している方等の経験や情報で議論する委員会を、科学的調査に替えて行っている。そのため、委員の皆さんに活発にご発言いただく工夫を行い、短時間での議論の中、良い情報を出してもらうことが重要である。我々がしっかりと議論し情報を出していく工夫を本格的に取り組むことについて、ご協力いただけてありがたかった。</p>
委員長	<p>答申書に盛り込む視点として、新たな担い手の発掘、AI、民間委託など大胆な発想も今回は強調してはどうか。</p>
委員	<p>証拠まで求めていくとなると、横断的なプロジェクトに絞り込み、根拠、成果等をひっくるめて行う方が良いのではないかと。</p>
委員長	<p>事業を絞り込むにあたり、一つは横断的な事業や、独自の事業を選択する方法がある。評価対象を適切に選ぶのは難しいが、少なくとも一つの選択肢として、事業を絞ることも考えた方が良い。また、評価表をカラーにする等、評価結果をより見やすく見ってもらう工夫も取り入れてはどうか。報告書が一層使われるようにするためには、より分かりやすくアレンジしていく発想も必要である。</p>
委員長	<p>では、総評について良ければ委員長に一任いただき、事務局と私で総評を作成し、作成したものを委員の皆様にご確認いただきたいと思います。</p>
各委員	<p>(異議なし)</p>
委員長	<p>答申書を作成し、答申日までに委員の皆様にご確認いただきたくこととする。</p>
委員長	<p>(今後の予定について説明)</p>
委員長	<p>閉会 10月11日(金)16:30より、市長室にて行政評価委員会から答申を行う。それでは第6回の行政評価委員会の審議を終了とする。</p>